



生化学検査 I

No	検査項目	材料 検体量	検査法	参考基準値		単位	備考
				イヌ	ネコ		
1	総蛋白 (TP)	血清 0.2mL	ビューレット法	5.1~7.7	5.4~7.8	g/dL	冷蔵
2	アルブミン (Alb)	血清 0.2mL	BCG法	2.5~4.0	2.5~3.9	g/dL	冷蔵
3	総ビリルビン (T-Bil)	血清 0.2mL	バナジン酸酸化法	0.00~0.30	0.00~0.30	mg/dL	冷蔵
4	尿素窒素 (BUN)	血清 0.2mL	酵素法	9.2~29.9	15.0~37.0	mg/dL	冷蔵
5	クレアチニン (CRE)	血清 0.2mL	酵素法	0.5~1.5	0.8~1.8	mg/dL	冷蔵
6	アルカリフォスファターゼ (ALP)	血清 0.2mL	IFCC法	15~78※	9~53※	U/L	冷蔵
7	GOT(AST) (GOT)	血清 0.2mL	JSCC法	15~48	12~45	IU/L	冷蔵
8	GPT(ALT) (GPT)	血清 0.2mL	JSCC法	18~71	19~90	IU/L	冷蔵
9	乳酸脱水素酵素 (LDH)	血清 0.2mL	IFCC法	12~190	21~289	U/L	冷蔵
10	クレアチンキナーゼ (CK)	血清 0.2mL	JSCC法	40~151	28~207	IU/L	冷蔵
11	γ-グルタミルトランスぺプチダーゼ (γ-GTP)	血清 0.2mL	JSCC法	1~8	1~7	IU/L	冷蔵
12	アミラーゼ (Amy)	血清 0.2mL	BG5P基質法	344~2000	589~2482	IU/L	冷蔵
13	リパーゼ (Lip)	血清 0.2mL	DGGMR法	5~170	5~50	IU/L	冷蔵
14	総コレステロール (T-CHO)	血清 0.2mL	酵素法	107~314	71~234	mg/dL	冷蔵
15	中性脂肪 (TG)	血清 0.2mL	酵素法	17~102	8~71	mg/dL	冷蔵
16	カルシウム (Ca)	血清 0.2mL	アルセナゾ法	8.6~11.4	8.0~11.1	mg/dL	冷蔵
17	無機リン (IP)	血清 0.2mL	酵素法	2.2~5.5	2.2~6.5	mg/dL	冷蔵
18	グルコース (GLU)	血清 0.2mL	酵素法	69~122	64~152	mg/dL	冷蔵
19	ナトリウム (Na)	血清 0.2mL	ISE法	142~152	145~159	mEq/L	冷蔵
20	カリウム (K)	血清 0.2mL	ISE法	3.7~5.3	3.0~4.8	mEq/L	冷蔵
21	クロール (Cl)	血清 0.2mL	ISE法	105~117	111~125	mEq/L	冷蔵

※ ALP の参考基準値は、成犬・成猫を対象としています。1 歳以下は、一般的に高値となります。





血液検査結果の解説

検査項目		関連部位	検査項目の解説	低値 (L)	高値 (H)
総蛋白	蛋白		アルブミンとグロブリンの和です。異常値を示す場合には疾患の存在が示唆されます。	栄養不良、吸収不良、肝・腎疾患、出血	感染症、脱水、腫瘍
アルブミン			肝臓で合成される蛋白質です。浸透圧の維持や物質の運搬をしています。	栄養不良、出血、肝・腎・腸疾患	脱水
A/G比			アルブミン(A)とグロブリン(G)の比。グロブリンは総蛋白からアルブミンを引いた数値です。	慢性感染症、慢性炎症、リンパ腫	
総ビリルビン			胆汁色素の一つです。壊れた赤血球から作られます。		赤血球の破壊、肝・胆道系疾患
尿素窒素			窒素性の老廃物です。主に腎機能の指標として用いられます。	肝疾患、蛋白欠乏	腎機能障害、脱水、消化管出血
クレアチニン			腎機能の評価に用いられます。筋肉内で作られます。	筋肉量の低下	腎機能障害
アルカリフォスファターゼ			肝臓、胆管、骨など全身の臓器に分布しています。若齢では骨の成長のため、高い値になります。		肝・胆道系疾患、骨疾患、腫瘍
GOT			肝疾患の指標として用いられます。骨格筋や心筋にも分布しています。		肝細胞や筋肉の壊死
GPT			肝臓に多く分布する酵素です。肝細胞の障害の指標になります。		肝細胞の障害
LDH			体内の細胞に広く分布する酵素です。臓器の損傷に伴って血中濃度が上昇します。		リンパ腫、白血病
クレアチン・フォスフォキナーゼ			骨格筋に最も多く存在します。		筋肉の損傷・炎症
γ-GTP			胆管系疾患に特異的な検査です。		肝・胆道系疾患
アミラーゼ			犬・猫では、血中のアミラーゼは主に膵臓に由来します。		膵炎・腎不全
リパーゼ			血中のリパーゼは、主に膵臓と消化管粘膜に由来します。		膵炎・腎不全
総コレステロール	脂質		主に肝臓で作られて、胆汁に排泄されます。	蛋白漏出性腸症、アジソン病(犬)	糖尿病、肥満、甲状腺機能低下症(犬)
中性脂肪			皮下脂肪の主成分。食後に高値になります。		糖尿病、肥満、甲状腺機能低下症(犬)
カルシウム			ホルモンやビタミンDによって調節されています。	急性膵炎、低アルブミン血症	骨溶解性病変、腎不全、腫瘍
無機リン			多くの食物に含まれます。ホルモンや腸からの吸収、骨代謝、腎臓からの排出に関連して変動します。	ホルモン異常	腎不全、ビタミンDの過剰
血糖			動物にとってのエネルギー源。食後に高値になります。	インスリンの過剰(腫瘍など)、飢餓	糖尿病、ストレス(猫)
ナトリウム	電解質		電解質と呼ばれます。	下痢、嘔吐、腎疾患、高ナトリウム食	脱水
カリウム			電解質は体液を構成する主要成分です。全身の体液水分量のバランスの識別に役立ちます。	下痢、嘔吐、腎不全	脱水、腎不全
クロール				嘔吐	脱水

